

# 芸 術

## (書道Ⅱ)

発行者の番号略	教科書の記号番	判 型	総ページ数	検定済年
6 教図	書Ⅱ302	A4変型	106	平成25年
2 東書	書Ⅱ305	A4	118	平成29年
6 教図	書Ⅱ306	A4変型	116	
17 教出	書Ⅱ307	A4	120	
38 光村	書Ⅱ308	A4変型	104	

※総ページ数は、目録に記載されている数

# 1 調査の対象となる教科書の冊数と発行者及び教科書の番号

書道Ⅱ		冊数	5冊
発行者の略称・教科書の番号	教図302 東書305 教図306 教出307 光村308		

## 2 学習指導要領における教科・科目の目標等

### 【芸術の目標】

芸術の幅広い活動を通して、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、芸術の諸能力を伸ばし、芸術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。

### 【書道Ⅱの目標】

書道の創造的な諸活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。

### 【書道Ⅱの内容及び内容の取扱い】

「内容」の抜粋	「内容の取扱い」抜粋
<p>A 表現 表現に関して、次の事項を指導する。</p> <p>(1) 漢字仮名交じりの書 ア 意図に即した表現と用具・用材の関係を工夫すること。 イ 名筆の鑑賞に基づき表現を工夫し、個性的に表現すること。 ウ 表現形式に応じて、全体の構成を工夫すること。 エ 感興や意図に応じた素材や表現を構想し、工夫すること。</p> <p>(2) 漢字の書 ア 書体や書風に即した用筆・運筆を理解し、工夫すること。 イ 古典に基づく表現を工夫し、個性的に表現すること。 ウ 表現形式に応じて、全体の構成を工夫すること。 エ 感興や意図に応じた素材や表現を構想し、工夫すること。</p> <p>(3) 仮名の書 ア 書風に即した用筆・運筆を理解し、工夫すること。 イ 古典に基づく表現を工夫し、個性的に表現すること。 ウ 表現形式に応じて、全体の構成を工夫すること。 エ 感興や意図に応じた素材や表現を構想し、工夫すること。</p> <p>B 鑑賞 鑑賞に関して、次の事項を指導する。 ア 書の美の諸要素を把握し、その表現効果について理解し、感受を深めること。 イ 書の美と時代、風土、筆者などのかかわり、その表現方法や形式等について理解を深めること。 ウ 日本及び中国等の書の歴史・文化と書の現代的意義について理解を深めること。</p>	<p>(1) 生徒の特性、地域や学校の実態を考慮し、内容のAの(2)又は(3)のうち一つ以上を選択して扱うことができる。</p> <p>(2) 内容のAの指導に当たっては、(1)の漢字は楷書、行書及び草書、仮名は平仮名及び片仮名、(2)は楷書、行書、草書、隸書及び篆書、(3)は平仮名、片仮名及び変体仮名を扱うものとする。</p> <p>(3) 内容のAの指導に当たっては、篆刻を扱うものとし、生徒の特性等を考慮し、刻字等を加えることもできる。また、(2)及び(3)については、臨書及び創作を通して指導するものとする。</p> <p>(4) 内容の取扱いに当たっては、「書道Ⅰ」の3の(1)、(5)及び(6)と同様に取り扱うものとする。</p> <p>&lt;参考&gt;書道Ⅰ 3内容の取扱い (1) 内容のA及びBの指導に当たっては、相互の関連を図るものとする。 (5) 内容のBの指導に当たっては、作品について互いに批評し合う活動などを取り入れるようにする。 (6) 書に関する知的財産権などについて配慮し、自己や他者の著作物等を尊重する態度の形成を図るようにする。</p>

### 3 教科書の調査研究

#### (1) 内容

##### ア 調査研究の総括表（調査結果は「別紙1」）

	調査研究事項	対象の根拠（目標等との関連）	数値データの単位
a	「表現」で「漢字仮名交じりの書」・「漢字の書」・「仮名の書」を扱うページ数と割合	内容《A表現》	ページ、%
b	「表現」で「篆刻、刻字等」を扱うページ数と割合	内容の取扱い（3）	ページ、%
c	「鑑賞」で「書的美と時代、風土、筆者などのかかわり」を扱うページ数と割合	内容《B鑑賞》	ページ、%
d	「鑑賞」で「日本及び中国等の書の歴史・文化と書の現代的意義」を扱うページ数と割合	内容《B鑑賞》	ページ、%
e	発展的な内容を取り上げている箇所数	第1章総則 第5款 2	個

##### イ 調査項目の具体的な内容（調査結果は「別紙2」）

###### ① 教科書の特徴をより明確にするため、具体的に調査研究する事項

<上記調査項目関連>

c 「鑑賞」に関して「書的美と時代、風土、筆者などのかかわり」について取り扱っている事項

e 発展的な内容を取り上げている箇所数

<その他>

\* 防災や、自然災害の扱い（調査の結果、記載のないことを確認した。）

\* オリンピック、パラリンピックの扱い（調査の結果、記載のないことを確認した。）

###### ② 調査対象事項を設定した理由等

・ 学習指導要領に、「書的美と時代、風土、筆者などのかかわり、その表現方法や形式等について理解を深めること。」とされているため、「鑑賞」に関して「書的美と時代、風土、筆者などのかかわり」について取り扱っている事項について調査する。

・ 学習指導要領に、内容の範囲や程度等を示す事項は、当該科目を履修する全ての生徒に対して指導するものとする内容の範囲を示したものであり、学校において必要がある場合には、この事項にかかわらず指導することができるため、発展的な内容を取り上げている箇所について調査する。

\* 東京都では、自然災害時における被害を最小化し、首都機能の迅速な復旧を図る総合的なリスクマネジメント方策の確立が喫緊の課題であり、防災教育の普及等により地域の防災力の向上が重要であることから、防災や自然災害の扱いについて調査する。

\* 東京都教育委員会教育目標の基本方針2・3に基づき、文化・スポーツに親しみ、国際社会に貢献できる日本人を育成するという観点から、オリンピック・パラリンピックの扱いについて調査する。

#### (2) 構成上の工夫（調査結果は「別紙3」）

① コラム・資料・トピックスの扱い方

② 視覚的資料(写真、図・イラスト、グラフ、表など)

③ ゴシック等の用語

④ 編集上の工夫・その他

「別紙1」【(1)内容 ア 調査研究の総括表】(書道Ⅱ)

調査項目			a		b		c		d		e	
			をの交「表 扱書じ現 うーり現 ペーのー ー書で ジ仮ー 数名・漢 との「字 割書「仮 合ー字名		と字「表 割等「現 合」をー 扱で う「篆 ペー刻 ージ、 数刻				ペー ジ	%	ペー ジ	%
発行者	教科書番号	教科書名	ページ	%	ページ	%	ページ	%	ページ	%	個	(全体の ページ数)
教図	302	書Ⅱ	52	49.1	3	2.8	38	35.8	25	23.6	0	106
東書	305	書道Ⅱ	81	68.6	9	7.6	46	39.0	23	19.5	1	118
教図	306	書Ⅱ	76	65.5	8	6.9	58	50.0	21	18.1	2	116
教出	307	新編 書道Ⅱ	74	61.7	6	5.0	51	42.5	25	20.8	2	120
光村	308	書Ⅱ	74	71.2	7	6.7	52	50.0	23	22.1	1	104
平均値			71.4	63.3%	6.6	5.9%	49.0	43.4%	23.4	20.7%	1.2	

- ・割合を算出する基準となる全体のページ数は、教科書の表紙の裏のページから、裏表紙の前のページまでのページ数とした。
- ・a「表現」で「漢字仮名交じりの書」「漢字の書」「仮名の書」は、題材や書が掲載されているページを数えた。
- ・b「表現」で「篆刻、刻字等」は、篆刻、刻字等が掲載されているページを数えた。
- ・c「鑑賞」で「日常生活における書への関心と効用」は、日常生活における書への関心と効用が掲載されているページを数えた。
- ・d「鑑賞」で「日本及び中国等の書の伝統と文化」は、日本及び中国等の書の伝統と文化に係る内容が掲載されているページを数えた。

「別紙2-1」【(1)内容 イ 調査項目の具体的な内容 c 「鑑賞」に関して「書之美と時代、風土、筆者などのかかわり」について取り扱っている事項 発行者 教図302】(書道Ⅱ)

事 項	内 容
漢字の書	各書体の古典（「泰山刻石」など24作品）の写真とその解説 「清時代の書と篆刻」について、趙之謙と吳昌碩の作品の掲載とその解説 「明清の書」について、王鐸ら3作品の掲載とその解説
仮名の書	各古典（「高野切第一種」など6作品）の写真とその解説

「別紙2-1」【(1)内容 イ 調査項目の具体的な内容 c 「鑑賞」に関して「書之美と時代、風土、筆者などのかかわり」について取り扱っている事項 発行者 東書305】(書道Ⅱ)

事 項	内 容
漢字の書	各書体の古典（「張猛龍碑」など18作品）図版とその解説
仮名の書	古今和歌集に見る展開」として、（「曼珠院本古今和歌集」など4作品）図版とその解説 各古典（「粘葉本和漢朗詠集」など7作品）図版とその解説
漢字仮名交じりの書	「書之美と個性」について、本阿弥光悦「鶴下絵 三十六歌仙 和歌巻」図版とその解説 「古典を生かした表現」と題し、漢字仮名交じりの書の創作のための古典（「蘭亭序」など3作品）図版とその解説 名筆・古典に学ぶ仮名の調和として、古典（「土佐日記」など3作品）図版とその解説 仮名に学ぶ漢字と仮名の調和として、古典（「藍紙本万葉集」）図版とその解説

「別紙2-1」【(1)内容 イ 調査項目の具体的な内容 c 「鑑賞」に関して「書之美と時代、風土、筆者などのかかわり」について取り扱っている事項 発行者 教図306】(書道Ⅱ)

事 項	内 容
漢字の書	<p>「喪乱帖」の図版とその解説            各書体の古典（「泰山刻石」など33作品）の図版とその解説            「清時代の書と篆刻」について、趙之謙と吳昌碩の作品とその解説            篆刻、刻字について、印影（26作品）の図版とその解説            清時代の隸書について、金農ら（3作品）の図版とその解説            「草書の古典」について、王羲之ら（14作品）の図版とその解説            「連綿の書」について、王羲之ら（14作品）の図版とその解説            近現代漢字の書について、懷素ら（3作品）の図版とその解説            「顔真卿の人と書」について解説            「文化の国風化と和様」について、藤原行成ら（2作品）の図版とその解説            「人と書」として、鍾繇・王羲之ら（4作品）の図版とその解説</p>
仮名の書	<p>「石山切」の図版とその解説            各古典（「高野切第一種」など13作品）の図版と解説            「人と書」として、日本人の美意識について解説</p>
漢字仮名交じりの書	<p>「人と書」として、森田安次（3作品）の図版</p>

「別紙2-1」【(1)内容 イ 調査項目の具体的な内容 c 「鑑賞」に関して「書之美と時代、風土、筆者などのかかわり」について取り扱っている事項 発行者 教出307】(書道Ⅱ)

事 項	内 容
漢字の書	<p>各書体の古典（「祭姪稿」など20作品）図版とその解説            「顔真卿の人と書」について、書之美と時代、作者のかかわりについて記述            「あの人が残した書」について、著名人（一休宗純ら5名）の書之美と時代、作者のかかわりについて記述            「北朝の書の魅力」について、南朝（1作品）・北朝（2作品）の図版と書之美とその時代について解説            「明末清初の連綿草」について、王鐸の作品図版とその解説</p>
仮名の書	<p>各古典（「高野切第一種」など10作品）図版とその解説            「顔を避けて字を書く配慮」として、「卷子本古今集」図録と解説</p>

「別紙2-1」【(1)内容 イ 調査項目の具体的な内容 c 「鑑賞」に関して「書の美と時代、風土、筆者などのかかわり」について取り扱っている事項 発行者 光村308】(書道Ⅱ)

事 項	内 容
漢字の書	王羲之の書（11作品）の図版と解説 各書体の古典（「泰山刻石」など22作品）の図版とその解説 日本文学に登場する能書（2作品）の図版とその解説 人々と書の説明として、「記録を残すために」「思いを伝えるために」「文字を知るために」として、図版（12作品）とその解説 藤原佐理（3作品）の図版とその解説 北宋の三大家の作品の図版とその解説 初期の楷書の図版とその解説 近世以降に書かれた作品（青山杉雨など4作品）の図版とその解説
仮名の書	三色紙（小野道風など15作品）の図版 各古典（「高野切第一種」など6作品）の図版とその解説 「伝称筆者と古筆」として、紀貫之など（8作品）の図版とその解説 「自然の景観を意識した構成の美を楽しもう」として、源俊頼（2作品）の図版とその解説 「散らし書きによる空間の美を味わおう」として、小野道風など（2作品）の図版とその解説
漢字仮名交じりの書	良寛の書の図版とその解説

「別紙2-2」 【 (1)内容 イ 調査項目の具体的な内容 e 発展的な内容の概要 】 (書道Ⅱ)

発行者	教科書番号	教科書名	扱いの有無	取り上げられている項目	記述の概要
教図	302	書Ⅱ	有 ① 無		
東書	305	書道Ⅱ	① 有 無	隷書に学ぶ漢字と仮名の調和	・「張遷碑に基づく表現」として、隷書の古典をもとにして、漢字と仮名を調和させて書く
教図	306	書Ⅱ	① 有 無	古典に表現を学ぼう	・「素朴で伸びやかな表現を石門頌に学ぼう」 ・「ゆったりとして伸びやかな表現を居延漢簡に学ぼう」
教出	307	新編 書道Ⅱ	① 有 無	漢字仮名交じりの書の表現と鑑賞	・木簡の自由な伸びやかさを生かした表現 ・個性豊かに表現されている阿波野青畝の句「裸の子蘭亭帖の字を習ふ」
光村	308	書Ⅱ	① 有 無	漢字仮名交じりの書	・「鷹揚さを求めて」として、古典「居延漢簡」の、ゆったりとした波磔や横に長い字形を生かして、鷹揚に構えた作品を創作



「別紙3」 【(2) 構成上の工夫】 (書道Ⅱ)

発行者	教科書番号	教科書名	構成上の工夫
教図	302	書Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・随所に「覚えよう」「話し合おう」などのトピックスがあり、生徒の問題解決能力育成や活発な言語活動に効果的である。</li> <li>・「みる・くらべる・はなす」という鑑賞に特化したページを設けている。近代(明清時代)の書や篆刻について積極的に取り上げている。</li> <li>・単元のテーマや釈文等もゴシックが使われている。</li> <li>・「参考にしよう」「覚えよう」「話し合おう」「やってみよう」など、生徒の興味を引くようなトピックスがあり、生徒が自ら選択して学習できるような構成である。</li> </ul>
東書	305	書道Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「字形と筆順」や「硬筆練習」は、臨書の際に筆路や筆順を確認・理解できるようになっており、行草の学習に効果的である。</li> <li>・作品ごとに「臨書・鑑賞の要点」「自己評価の要点」があるため、学習の流れが明確であり、生徒自身で達成度の確認ができる。</li> <li>・漢字の書では、「人物」「時代背景」「字形と筆順」「釈文」「読み下し文」「大意」が掲載されており、様々な角度から古典の理解ができる。</li> <li>・現代の作家の作品資料は、作風のバランスが図られ、解説・鑑賞のポイントもあるため、創作の参考に有効である。</li> <li>・「古典を生かした表現」は、漢字仮名交じり文の創作だけでなく、実生活での活用も期待できる。</li> <li>・人物や時代背景に触れることで理解を深めるとともに、世界史や漢文などとの関連を図ることができる。</li> </ul>
教図	306	書Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コラムを設け、より深く広く書について学ぶことができるように工夫がされている。</li> <li>・「作品鑑賞の部屋 みる・くらべる」などのトピックがあり、生徒の問題解決能力育成や活発な言語活動に効果的である。</li> <li>・書道用語集があり、書道で学ぶ言葉を生徒が自主的に学ぶことができる工夫がされている。</li> <li>・書を所蔵する日本のおもな美術館・博物館の紹介があり、書に関する興味関心を高める工夫がされている。</li> <li>・各章のとびらに、作家などの書や文字にまつわる文章が掲載され、これから学ぶ書に対する意欲を喚起する工夫がされている。</li> <li>・「豆知識」や「Check」など、更に興味関心を高め、内容を深める事柄が掲載されている。</li> </ul>
教出	307	新編 書道Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「顔を避けて字を書く配慮」「コレクションについて」など様々な角度から書を学習できるように工夫がされている。</li> <li>・コラム「身のまわりに見られる篆書」「身のまわりに見られる隷書」は、書をより身近なものにし、生徒の興味や関心を喚起することが期待できる。</li> <li>・「筆順と字形」は、難解な草書・行書の筆路を示しており、学習がしやすいよう工夫がされている。</li> <li>・「馬の字の変遷」「為の字の変遷」など、書体の変遷を視覚的に提示するなどの工夫がされている。</li> <li>・「あの人が残した書」では国語や日本史などで学習する人物の書が掲載されており、多角的なアプローチが期待できる。</li> <li>・「高野切三種」の違いについて、図版を用いた解説がされている。</li> </ul>
光村	308	書Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「漢字の書」「仮名の書」「漢字仮名交じりの書」「篆刻」「書道史」の分類と項目名がページの端に縦書きで記入されていることで、学習内容の把握がしやすい。</li> <li>・「漢字の書」「仮名の書」「漢字仮名交じりの書」「篆刻」「書道史」の分類が五色の色分けがされていることで、学習内容を検索しやすい。</li> <li>・漢字の書体について、字形と用筆を並べて比較したり、書体の変化を時系列に沿って紹介するなど、生徒の興味関心を高める工夫がされている。</li> <li>・古典逆引き資料として、中国・日本書道関係地図が掲載され、生徒が自ら学びやすいよう構成されている。</li> <li>・「創作する」では、書きたい言葉や表札など、身近なものに学んだ書を取り入れる工夫がされている。</li> <li>・日本文学に登場する能書や良寛の書など、生徒が興味関心を高めるのに効果的な題材を取り上げている。</li> </ul>